

研究課題名	対象となる方	研究目的	研究期間	研究に用いる情報	実施責任者
多職種による薬剤適正使用 チェックの有用性の検討	急性心不全で入院する60歳以上 の患者	本研究は、急性心不全で入院した患者を対象 に多職種による薬剤適正使用のチェックを行 い、polypharmacy是正を達成できるか確認し、 達成できない要因、患者背景を明らかにし、ま たQOLの変化や予後追跡を行い心不全患者 におけるdeprescribingの妥当性明らかにする ことを目的とした、単施設前向き観察研究である。	倫理審査委員会承認後～2025年12月 31日	1) 患者基本情報 2)医学的情報(基礎疾患名、心不全の 経過、自覚症状、採血データ、心電 図、心エコー、体組成分析、6分間歩行 距離) 3)QOLアンケート 4)栄養評価アンケート 5)転帰 6)服薬情報	河合 勇介
瀬戸内乳がん登録	乳癌手術治療を行った患者全例	地域(中国、四国地方)共通乳がん登録シス テムを構築し、乳がん罹患の動向(年齢別罹 患数、発見契機、進行度、生物学的特性な ど)、治療の動向(手術・放射線・薬物療法 の実施詳細など)、予後情報(再発、生存など) を評価・検討する。大規模データベースの解 析により医学研究や社会に還元可能な、乳が ん関連疫学情報を得る。	倫理委員会承認後 ～2026年12月	1) 患者基本情報 2)診 療情報(背景因子情報、がん関連情 報、治療関連情報、予後情報)	池田 宏国
ブドウ球菌菌血症における臨 床的・微生物学的特徴、予後、 診療の質指標の後ろ向き検討	2013年度～2024年度に血液培養 よりブドウ球菌が検出された患者。	本研究では中四国地方の複数の医療機関に おけるブドウ球菌菌血症症例について、臨床 的、微生物学的特徴、予後、診療の質指標の 検討を多施設後ろ向き研究にて実施すること で、本疾患におけるリスク評価や治療マネジ メントの改善に寄与することを目的とする。特に Staphylococcus lugdunensisの臨床的なイン パクトに着目する。	倫理委員会承認後 ～2026年12月31日	①患者情報(個人特定不可) ②ブドウ球菌感染症の状況(市中感染 か院内感染か、複雑性感染症の有 無、検査所見) ③微生物検査情報(血液培養の検査 状況) ④治療(投与された抗菌薬等) ⑤予後(30日死亡、院内死亡)	山田 晴士

研究課題名	対象となる方	研究目的	研究期間	研究に用いる情報	実施責任者
アジア地域における転移性肝癌局所凝固療法の実情調査	2019年から2021年の間にラジオ波焼灼療法などの局所凝固療法を施行された転移性肝癌患者	アジア各国の転移性肝癌局所凝固療法の実態を明らかとし、その有用性を分析する	倫理委員会承認後 ～2025年12月31日	1) 治療前基本情報: 年齢, 性別, 診断名, 転移発生時期(同時・異時)、原発巣の治療状況、腫瘍径、腫瘍数、血液生化学データ、ステージ、併用化学療法 2) 治療情報: 機器、焼灼の程度、重篤な合併症の発生状況 3) 予後: 無再発生存率、生存率、観察期間 4) 治療後経過観察の手段、保険償還の有無	能祖一裕
組織球性壊死性リンパ節炎の病態解明および自己免疫疾患関連リンパ節症との比較研究	2012年1月1日～2028年9月1日に、壊死性リンパ節炎(組織球性壊死性リンパ節炎、全身性エリテマトーデス関連リンパ節症、リウマチ膠原病関連リンパ節症、感染症によるもの、原因不明のものを含む)と診断された方で、診断時の年齢が0歳以上の患者。	多症例の組織球性壊死性リンパ節炎患者の臨床所見や治療経過・組織所見のバリエーションについて調査を行い、病態推測に役立てる。さらに、次世代シーケンサーを用いて網羅的遺伝子発現解析を行い、対照群(非特異的リンパ節炎)との比較から特徴的な遺伝子発現パターンを明らかにすることで、組織球性壊死性リンパ節炎の病因・病態解明に繋げたい。 さらに、全身性エリテマトーデスにおける臨床病理学的特徴や遺伝子発現パターンと比較することで、自己免疫疾患の病態形成メカニズムの解明にアプローチすることを目的としている。	倫理委員会承認後 ～2028年10月31日 (研究対象者登録締切日: 2028年9月1日)	1) 患者基本情報: 年齢、性別、臨床情報、病理診断結果、放射線診断結果、治療法ならびに治療効果 2) 血液検査および生化学検査データ 3) 病理組織(診療で用いた検査の残余検体。)	小田 和歌子
血液腫瘍患者の化学療法治療期間中に発生するCancer related cognitive impairmentと関連要因の調査	2024年4月1～2024年3月31日に当院血液内科に化学療法目的に入院された18歳以上の方のうち、以前に左記の研究課題に同意された方を対象としています。	化学療法を受けられる方で、以前と比べて少し物忘れが多くなったと言われる方が一定数おられます。そこでどのようなことが原因となっているか明らかにする事を目的に研究を実施しております。研究結果は、学会および論文として発表することに加えて、研究実施者の修士論文の内容に使用させていただきます。	倫理委員会承認後 ～2025年3月31日	①基本情報(個人特定不可) ②医学的情報(診断名、既往歴、血液データ、治療方針) ③身体機能・認知機能評価 上記の研究情報は、岡山市立市民病院および国際医療福祉大学にて個人が特定できない統計データとして共有し解析されます。また、解析結果は学術情報として学会および論文発表に使用されます。	岡馬隆晶

研究課題名	対象となる方	研究目的	研究期間	研究に用いる情報	実施責任者
DPCデータを用いた心疾患における医療の質に関する事業	当院で循環器疾患治療を外来および入院で行なわれた方	医療の質についての全国調査を行うことにより、医療の標準化をはかる。	倫理委員会承認後 ～2030年3月31日	当院のDPCデータ	河合 勇介
鼻副鼻腔びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫における MYD88 および CD79B の変異解析	1990 年 1 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日の時点でSinonasal diffuse large B cell lymphoma (SNDLBCL) と病理診断された方のうち診断時の年齢が 18 歳以上 100 歳未満の方。	Sinonasal diffuse large B cell lymphoma (SNDLBCL) でMYD88 や CD79B の変異がどの程度の割合でみられるかを観察する。MCD 型に分類される可能性が高い症例については、次世代シーケンスを行い、実際に MCD 型に該当するか分子病態学的分類を試みる。さらに、NBDC のデータベースより鼻副鼻腔以外を原発とするMCD 型 DLBCL に関する過去研究データを取得し、本研究で MCD 型に分類された症例と比較することで、SNDLBCL に特徴的な分子病態学的もしくは臨床病理学的所見がないかどうかを検索する。これらの研究を通じて、本疾患の分子病態学的特徴の詳細やその臨床的意義が明らかとなりSNDLBCL の病態解明に役立ち、予後予測や個別化治療に貢献できる可能性がある。	倫理委員会承認後 ～2026 年 3 月 31 日	・病理組織(診療で用いた検査の残余検体) ・患者データ(臨床所見、予後データ)	小田 和歌子
閉鎖孔ヘルニアの病態及び治療法と予後についての全国調査研究	2013年1月1日～2022年12月31日の間に閉鎖孔ヘルニアと診断された患者。	日本における閉鎖孔ヘルニア病態と死亡率、及び死亡に影響を及ぼす因子を解明するため、全国多施設のデータを集積する。	倫理委員会承認後 ～2024年2月29日	基本情報(年齢、性別、体重、身長、) 医学的情報(既往症、術式、術後合併症、入院日数、予後)	佃 和憲 (研究責任者:横山 隆秀 独立行政法人国立病院機構信州上田医療センター)

研究課題名	対象となる方	研究目的	研究期間	研究に用いる情報	実施責任者
レセプト等情報を用いた脳卒中・脳神経外科医療疫学調査 J-ASPECT study (Nationwide survey of Acute Stroke care capacity for Proper designation of Comprehensive stroke CenTer in Japan)	2022年4月1日から2023年3月31日の期間にJ-ASPECT研究参加施設に通院・入院された方	今回の研究では、救急搬送を含む入院から退院までの一貫した脳卒中および脳神経外科及び共通のリスクを有する循環器病(急性心筋梗塞、急性心不全、大動脈解離など)治療に関する大規模データベースを構築し、その実用性、妥当性の検証を行うことを目的とする。	研究許可日～2026年3月31日	生年月(日)あるいは年齢、性別、発症年月日、入院年月日、退院年月日、退院先 自宅郵便番号(研究利用前に事務局において下4桁の削除)、診療報酬算定情報(DPC) 入院経路:救急車による搬送、他院よりの紹介 入院前および入院後生活自立度(modified Rankin Scale score, mRS)、入院中死亡の有無、脳卒中・循環器病による入院 初期重症度(JCS、GCS、NIHSS、Hunt & Hess grade、ICH grade、Hunt & Kosnik grade) 入院中の看護必要度 神経学的所見 バイタル(血圧・脈拍) 検査データ(血球、生化学; 腎機能、LDL-Chol、PT-INR、血糖、HbA1c) 搬送から画像撮影までの時間 搬送から組織プラスミノゲン活性化因子(rtPA、血栓溶解療法)投与までの時間 搬送から血管内治療のための穿刺までの時間 血栓回収を行った場合の再開通度(TICI grade) rt-PA 静注療法または血管内再開通療法を施行した患者での 36 時間以内の症候性頭蓋内出血 (NIHSS4点以上悪化)の有無 退院 90 日後 modified Rankin Scale(mRS) 画像診断、検査[MRI、MRA、CT、脳血管造影、頸動脈超音波検査] リハビリテーションの有無、脳卒中・脳神経外科疾患・循環器病関連の診療にかかわる治療内容(投薬内容、開頭手術やカテーテル治療など) 退院サマリー・看護サマリー・診療情報提供書・診療記事・看護記録	徳永 浩司